

八尾市の芸術文化振興に係る団体ヒアリング調査 結果要旨

1. ヒアリング団体と実施日

令和3年6月21日～29日の期間に、全13団体に対して実施。

実施日	団体名	活動年数	ヒアリング内 表記
6月21日	特定非営利活動法人 河内木綿藍染保存会	30年	藍染保存会
	八尾国際交流野遊祭実行委員会 (八尾市人権協会)	(野遊祭 として) 25年	野遊祭
	八尾本場河内音頭連盟	28年	河内音頭
6月24日	八尾児童合唱団	44年	児童合唱団
	特定非営利活動法人やお市民活動ネットワーク (つどい)	18年	つどい
	八尾市生涯学習センター (八尾かがやき未来プロジェクト)	(管理者 として) 1年	かがやき
	株式会社梅崎 (シルキーホール)	35年	シルキー
6月25日	高橋商事株式会社	70年	高橋商事
	高安ルーツの能実行委員会 (高安能未来継承事業推進協議会)	13年	高安能
	Yao 人形劇まつり実行委員会 (人形劇連絡会は参加団体のひとつ)	(連絡会 として) 30年	人形劇
	健康子育て支援団体すまいる	9年	すまいる
	八尾ダンス協会	13年	ダンス
6月29日	八尾にアール・ブリュットを広める会	6年	アールブ

2. ヒアリング内容要旨

各選択肢の件数と具体的な内容の件数は、ご意見として伺っていないものもあるため一致しません。

■ 2-1. 活動の成果をどのように活用していますか。 (複数選択)

	項目内容	件数
1	会員の人生を豊かにし、生きがいづくりになっている	7
2	日常生活や地域での活動に活用している	6
3	仕事や就職、学校生活に活用している	1

4	資格取得に活用している	1
5	ボランティア活動に活用している	7
6	文化活動を広めること・指導に活用している	9
7	その他	0

【具体的な内容】

文化の継承・育成	
藍の型染や文様の魅力を、一般の方や子どもたちに歴史も含めて伝えている。近隣のまちづくり協議会の協力を得ながら、綿の栽培から糸紡ぎまで行っており、子どもへの文化教育にもつながっている（藍染保存会）。	
外国籍の人同士、または地域の日本人との交流と、文化の継承が目的。八尾に多数の外国籍の人がいることを、地域の方に実感していただきたい。当初は八尾駅の近辺で実施していたが、外国籍の人が多い地域に変更したところ、ベトナム人も多く参加するようになった（野遊祭）。	
プリズムホールでは、年1回連盟主催のイベントを実施している。また、子ども河内音頭講座を行っており、唄や鳴り物を教えている。講座を受講した子どもが会派に入り、音頭取りになったこともある（河内音頭）。	
音響等の技術スタッフの育成も行っている。また、昔バンド活動をしていた世代のジュニア世代が、バンド活動を始めている（シルキー）。	
能楽と八尾市の関わりを、イベントなどを実施して市民に伝えている。年1回でも継続的に実演の機会を設けることが重要であり、協議会をつくり積極的に助成金を獲得している。地域活性化事業では、その研究費で復曲した能「高安」の上演も行っている（高安能）。	
地域活動への参加	
地域の自治会や子ども会、小学校のPTA、市民スポーツ祭などの依頼や、盆踊りに呼ばれて唄いに行っている。各会派に直接依頼があるため、連盟は把握できていない（河内音頭）。	
活動機会の提供	
スマイル・サロンやわくわくまつりなどは、参加料を徴収して出店してもらい、広報も行う。初めて企画したことを試す場所として提供している。サロンではオーダーアクセサリや手作りパンなどにファンが付き、コラボも生まれている。わくわくまつりは規模が大きいため、後半を情報共有の時間とし、つながりをつくり活動の幅が広がるようにしている（すまいる）。	
ボランティア活動	
市の情報発信事業や老人ホームへの慰問などの依頼は連盟に連絡が入るため、会長から各会派に依頼して行っている（河内音頭）。	
依頼があれば慰問等にも行っている（ダンス）。	
営業活動	
企業からの依頼で、自社のスポーツ選手の激励会や壮行会で、チーム名や個人名を入れて唄ったことがある（河内音頭）。	

子どもの育成
出来上がった時の達成感や、ステージ上で歌い演じることの楽しさで、表情も変わってくる。大きな物を乗り越えた時の様子や表情を見ると、心も育っていると感じる（児童合唱団）。
子どもたちに生の人形劇を見てもらい、触れ合いや息遣いを感じて喜んでもらうことが目的だが、人形劇を通じて仲間に出会えることも大切だ（人形劇）。
授業や就職に活用
授業でダンスが必修化されたため、ダンス学校は増えている。またチアリーダーやテーマパーク等のダンサーなどを目指す子もいる（ダンス）。
学ぶ機会の提供
乳幼児から高齢者まで、幅広い年代に学ぶ機会やきっかけを提供している。講座で学んだあと、自分たちで独立して活動する団体となり、今度は教える側に回る場合もあり、学びの循環を意識してサポートしている。発表会は多くの方が見に来られるため、興味を持つと参加される（かがやき）。
障がい者の社会参加や生きがい
展覧会の開催や障がいを持つ著名な作家のイベントを開催することで、それを見た障がい者が造形活動に興味を持ち、社会参加や生きがいにつながることを期待している。展覧会では作品として尊厳のある展示を行うことが、障がい者の自信になる（アールブ）。
文化活動の拡大
若年層のバンドをメインにライブを開催し、活動を広めている。また、和太鼓やカルチャースクール等への貸し出しで、地域の生涯学習にも貢献している（シルキー）。
学校の先生に頼まれて、運動会の振り付けをすることもある。先生が振り付けたものとは差が出る（ダンス）。
公益主体を産み出し提供
公益を産み出す人や主体を創り、その公益を提供するための活動を行っている。地域分権（新しい公共）の推進の支援役や、ボランティア活動のノウハウの提供、文化活動分野でもつなぎ役を果たしている（つどい）。

■ 2-2. 活動をする上でどのようなことに困っていますか。（複数回答）

	項目内容	件数
1	会員が高齢化している	5
2	新しい会員の確保が難しい	7
3	活動がマンネリ化し、停滞気味である	2
4	活動場所の確保が難しい	6
5	成果を活かす場や発表の場がない	3
6	役員等運営側の人材不足	4
7	活動に必要な情報が得られない	0
8	情報がうまく発信できない	3

9	活動の目標等の共有化が図りにくい	0
10	資金が不足している	8
11	他団体との交流がない	2
12	新型コロナ感染症への対応	2
13	その他	1

【具体的な内容】

継承者の育成（会員の高齢化や減少）	
習い事の延長では指導者にはなれないため、後継者の育成には時間がかかる（藍染保存会）。	
指導者が高齢化しており、YouTube を先生として練習しているところもあるが、盛り立てて練習させる本当の先生がいなければ、ボランティアでの継承は難しい（野遊祭）。	
河内音頭は師弟制度のため、本人に強い意志がなければ続かない。弟子入りする人はほとんどなく、仕事をしながら月2回程度の練習や出稽古をしている。上達した場合、新しい屋号を付けて独立するか、会派を継ぐことになるが、10～20年はかかる（河内音頭）。	
「人づくり・人育て」を事業方針として打ち出した。市民活動の担い手の高齢化が問題となっているが、大学の授業で社会課題の解決等を取り上げるようになり、学生は増えたが定着しない。団塊世代と団塊ジュニア世代が少ない（つどい）。	
生涯学習を受講される方はシニアの方が中心で、現役で働いている方は時間も金銭的にも余裕がない。そのため、独立して団体をつくっても年齢層は高い。登録団体でフレンドシップをつくり、実行委員会形式で運営しているが、スタッフや役員のなり手がいない（かがやき）。	
主な会員や主要な実働メンバーが高齢化している。若い年代の会員もいるが、現役世代に申請事務の負担はかけられず、この活動に時間を割いていただける方をどう見つけるかは課題だ（高安能）。	
会員の確保	
SNS や口コミ、現団員の友人や兄弟が多い。新しい募集方法を模索中。習い事をさせたい保護者は多いが、ダンス人気が高い。合唱団は歌うだけと思われるが、体験してもらうと歌って踊ることがわかる（児童合唱団）。	
1つの作品をつくるためにほぼ1年かかる。脚本、人形、大道具、小道具を製作し、練習を行う。講習会に若い方が来てくれることもあるが続かない。公演依頼があれば責任をもって行かなければならないことも、負担に感じているかもしれない（人形劇）。	
会員はそれぞれの役割を果たしてくれており、そんなに困っていないが、現在、イベントを開催していないため、新しい方に声をかけづらいが、雰囲気壊さないため、声をかける人は選んでいる（すまいる）。	
コロナ禍で新しい会員の獲得が難しい。スタジオを持っているところは検温などの対策をしっかりとやっている（ダンス）。	
活動自体がボランティア的であり、創作活動を中心に取り組んでいる施設は少ない。趣旨に賛同して協力してくれる団体や人を集めることが難しく、展示会準備のための会員	

の負担も大きい（アールブ）。
マンネリ化
スペースがないこともあり、出店者が固定化してきている。形が決まっており、実行委員会がなくてもできる。（野遊祭）。
発表の場の不足
コロナ禍前は日本工芸館（建て替えのため休館）やプリズムホールの文化祭で発表していたが、現在は発表する場がないため目標が持てない（藍染保存会）。
出演者にとって次につながる場になっておらず、他に披露する場がない団体もあり、定期的な練習ができていない（野遊祭）。
盆踊りなどの発表の場が確保できない（河内音頭）。
発表の場は努力して探している。市役所のどこに問い合わせればいいのかかわからず、受け入れてもらえるかどうか心配だ。依頼があればほぼ受ける。これまでも多くのイベントに参加しているが、あり過ぎても普通のレッスンができない（ダンス）。
活動場所の確保
楽器を使う団体は音がうるさいため、練習できる場所が少ない。人権ふれあいセンターなどはあるが、普通のコミュニティセンターや公園などは、夜や土日には使えない（野遊祭）。
練習できる場所が限られている。集まる場所があれば、踊り手から音頭取りになりたい人も出てくる。防音施設が少なく、小学校の校庭、自宅、コミュニティセンターも難しい。月1回プリズムホールを借りて練習しているが、使用料や道具の運搬費用も必要（河内音頭）。
練習場所がなく、ケコミ（人形用の舞台）はプリズムホールで預かってもらっているが、その他は各家庭で保管している。コロナ禍で青少年センターやつどいも借りることができず、プリズムホールも休館中のため、現在は活動休止中だ（人形劇）。
活動拠点がなく、自転車で飲み物やコップ、絵本等の備品を運んでいる。すまいるひろばは、当初は有料で借りていたが、かがやきから居場所事業をしたいといわれ、無料になった。収支はプラスマイナスゼロを目指している（すまいる）。
公共施設は使えるようになったが、人数制限や時間短縮などの制約はある。大きな場所でのリハーサルをしたいが、場所がなかなか見つからない（ダンス）。
情報発信
ホームページ等で上手く発信できていない（藍染保存会）。
ホームページ、SNSなども充実させたいが、人材を入れられない（野遊祭）
つながりのない対象者（ターゲット）を見つけ出し伝える方法や、集客する方法を模索中（つどい）。
資金（収入源）の確保
教室の月謝が主な収入。ホテルなどから依頼を受けて販売することもあるが、販売契約に関する知識がない。デザインは売り切りだが、作品展など人目に触れる機会がなければ、その販売も難しい（藍染保存会）。
野遊祭の予算は35万円程度で、広告や世界人権宣言八尾市実行委員会（世人やお）からの助成金以外は手弁当で賄っている。備品も学校などから借りており、景品を出すなどの

企画があれば、参加者とステージの一体感が出せるかもしれない（野遊祭）。
自腹で練習しているため、盆踊りなどでの収入をプールできない現在の状況は大変苦しい（河内音頭）。
高校生・大学生が顧客の中心だが、コロナ禍でクラブ活動が禁止されて来なくなった。都心のライブハウスは何らかの形で利用されているが、立地での違いが出ており、八尾独自の利用法を検討する必要がある。府の助成金でオンラインライブを実験的に実施したが、盛り上がったのは最初だけだった。特別融資を受けている状態（シルキー）。
呉服屋が衰退し、卸問屋や和服の縫製工場も高齢化で廃業が増えて、売上が減少している。コロナ禍で祭りなどのイベントもなくなり、手ぬぐいなど配布できるもの以外、半纏や浴衣は減少している（高橋商事）。
普及啓発のために、参加は無料や資料代のみとしており、多額の経費は助成金、協賛金、寄付金で賄っている。今年度からプリズムホールで事業化され、少し負担は軽減したが、事務局はほぼボランティアだ（高安能）。
連絡会は自主運営。人形劇まつりはプロも出演するが、チケット売上以外の収入がないため、観客を増やすしかない。今までアマチュアの公演は無料だったが、今年からは 100 円とし、プロ公演は 1000 円。助成金のことは知らなかったが活用したい（人形劇）。
運営は小規模で、年間 3,000 円×7 団体で 2 万 1 千円しかなく、何もできない。振付料も限られている。体育連盟からは 5 万円の委託料をもらっている（ダンス）。
コロナ禍で、スタジオのない先生の中には全ての教室を閉めている人もいる。ただ、生徒が一旦離れると戻らない（ダンス）。
展覧会には 100 万円以上必要。助成金は 3 年間と聞いていたが、継続するためになんとかしたい。ロータリークラブから寄付をいただいているが、それだけでは賄えない。自力で額縁をつくったが、照明にはお金をかけなければ伝わる見せ方ができない（アールブ）。

■ 2-3. 活動をする上でどのような情報が必要ですか。（複数回答）

	項目内容	件数
1	活動場所等に関する情報	3
2	文化イベント等に関する情報	4
3	他の団体に関する情報	3
4	人材育成に係る研修や講習会等の情報	4
5	活動支援策（助成金等）に関する情報	6
6	その他	0

【具体的な内容】

活動場所の情報
防音施設でなければ練習ができないため、現在はプリズムホールの練習室とシルキーホールの 2 カ所しかない（河内音頭）。
活動拠点を持たないため、安価で借りることができる場所の情報が必要。ボランティア

団体はお金がないが、助成金は申請・報告資料の作成時間がないため利用していない。広く安全な場所を探しているが、場所代がネックだ（すまいる）。
文化イベント等の情報
作品展等、発表する場の情報が欲しい（藍染保存会）。
他にどんなイベントがあるのか知りたい（人形劇）。
イベント情報は必要だ。企業からの誘いでも大歓迎だ。農業祭など1回出たイベントは、リピーターとして呼んでくれる。協会に依頼があれば、7団体のどこかが手を挙げる（ダンス）。
ハッピーカムカム（関西テレビイベント）にも呼んでいただき、団体からも声をかけてもらった。芸術文化を発信するイベントがあれば、私たちも参加しやすい。会議で展覧会や公募の情報交換を行っていたが、コロナ禍でなくなっている（アールプ）。
講座などの情報
講座などの情報は商工会議所から入る。パソナからはIT関係の講習会情報が入る。関西織物卸商業協同組合からはゴルフコンペの誘いが多いが、泉佐野の工場見学もした（高橋商事）。
助成金等の情報
このような交流イベントに対する助成金がない（野遊祭）。
連盟としては助成金を使っていない。企業や市の情報発信事業については委託契約をしており、予算を確保していただいている。交通費以外は連盟でプールし、道具の維持や買い替え費用に充てている（河内音頭）。
助成金等の申請を勧められるが、申請や報告資料が多くて面倒だ。予算があれば年にもう1回演奏会をしたい。100回の練習より1回の本番のほうが上達する（児童合唱団）。
会員になっている能楽師の方から、文化庁等の助成金情報などを得ている。芸術家派遣事業も能楽師の方から聞き、市から学校へつないでいただき、忙しい校長先生に代わって事務代行を行う話も校長会で行った。今はコロナ禍でできない（高安能）。
活動支援について
人形劇の講習会は、以前は市の広報で集客していたが、今は講師の謝礼やアフターフォローまで、すべて自分たちでしなければならない。コミュニティセンターの文化祭も期間が短縮された。枚方や池田、吹田市などは市が支援しており、お寺での開催や幟が立てられているところもある（人形劇）。
他団体との交流
八尾のローカルイベントとして実施しているため、「つどい」などから情報を入手しているが、国際交流や多文化共生にこだわりがあり、他団体との交流に踏み込めていない（野遊祭）。
利用者のニーズ情報
利用者のニーズが知りたい。ライブ場所や練習場所、催し物会場、配信・録音ができる防音スタジオなど、スペースを探している人の情報がほしいが、今は利用者からの紹介も難しい（シルキー）。
活動団体の情報データベースの運用
やお市民活動ハンドブックをデータベース化し、スタッフ全員が対応できるように運用

している。電話番号は記載せず、問合せを受けて当事者同士で連絡を取り合ってもら う。基本情報はすぐに更新しているがすべては網羅できない。現在は施設ごとに登録が 必要なため、八尾市全体の情報を一元化すべきと考えている（つどい）。
登録団体の一覧を作成
登録団体の一覧は作成しているが、問合せ先も記載しており問い合わせはない。かがや きや市のホームページにも掲載している。様々な施設やプリズムホールをはじめ、近隣 の生涯学習センターの情報誌なども配架して、自由に持ち帰ることができるようにして いる（かがやき）。

■ 2-4. 新しい会員の確保のためにどのようなことをしていますか。（複数回答）

	項目内容	件数
1	地域で発行されているミニコミ誌等に募集記事を出す	2
2	コミュニティセンター等の施設に会員募集のチラシを置いている	2
3	インターネットや SNS を使って募集している	3
4	会員の知人・友人等に積極的に声をかけている	5
5	活動日に体験や見学の日を設定している	2
6	他の団体の演奏会や発表会、イベント等でチラシを配布している	2
7	その他	1
8	特にしていることはない	3

【具体的な内容】

特にしていない
藍染には広い作業場所が必要であり、会場に限られる。コロナ禍では密を避けるため、 毎日教室を開いて1回の作業人数を抑えている。また、指導者も足りないため、現在は 会員の拡大が難しい（藍染保存会）。
図書館で一緒に人形をつくるワークショップなどには来るが、続ける人がいない。最初は 9人いたが少しずつやめていった。見に来た方に声をかける程度（人形劇）。
チラシの配布
居酒屋のお手洗いや、スーパー、団員の保護者の店や会社などに、チラシを貼らせてもら っている。定期演奏会の案内は、幼稚園や小中学校の音楽の先生宛に郵送している。幼稚 園や小学校を訪問したいがツテがない（児童合唱団）。
共用スペースに登録団体の活動 PR コーナーを設置している（かがやき）。
インターネットや SNS による募集
スタッフは民族にこだわらずに増やしたいと考えており、インターネットや SNS で募集 しているが効果がない。市政だよりも掲載できないこともある。今はミニコミ誌にも募集 は出しておらず、かかわる人が増えない（野遊祭）。
講座情報は紙媒体や SNS など発信しているが、高齢者は市政だよりを見られている（か がやき）。

ツイッターやInstagramを使用しているが、直接ラインで声を掛けた方が効果的。一般市民に呼び掛けても難しい（シルキー）。
イベントの開催や参加
展覧会等のイベントを開催することで、興味を持っていただくことが重要。造形活動を行う障がい者や支援者を増やしたい。同じ施設の人が出展されると、それがきっかけで他の人もチャレンジしたくなる（アールブ）。
知人・友人への声掛け
実働実態がかなり専門的で、個人情報を扱うため、安易に人を増やすことは出来ない。知人に声掛けをしている程度。協賛金をいただいた方のお名前や、支払にはマイナンバーもいただき、源泉徴収票や支払調書もあるため、会員の税理士と自分（事務局）だけで行っている（高安能）。
出店は口コミで紹介してもらっている。雰囲気壊さないよう、要綱や目的に賛同でき、営利、宗教、政治等の目的のない人にだけ参加していただいている。スマイル・カフェは出店数を10組としており、横のつながりづくりを促している。SNSで積極的に集客しているわけでもないが、いい流れはできている。学習の場であり、生活の知恵を共有する場としている（すまいる）。
口コミが多く、チャレンジレッスンを受けてもらうことが確実だ。また、イベントを見て参加したいと連絡をくれることもある（ダンス）。
新しい価値観・考え方をを持った正会員を募集
新しい価値観・考え方をを持った正会員を増やさなければ、閉鎖的な組織は衰退する。八尾市の審議会や市民会議に、新しい感覚を持った人を委員として紹介する際に、正会員になってもらって送り出している（つどい）。
各構成団体での取り組み
連盟としては特に取り組んでいないが、各会派としては、自分の子どもの友達やギターを弾いている人など、関心がありそうな人に声をかけている。伴奏も河内音頭のポイントを知っておかなければ、セリフなども入る唄に合わせることができない（河内音頭）。

■ 2-5. 他の活動団体との情報交換を実施していますか。実施している場合はどのような形で行っていますか。（複数回答）

	項目内容	件数
1	代表者等による会議・情報交換会の開催	4
2	代表者や会員同士の個別な電話や会話など	3
3	Eメール・メーリングリストやインターネット・SNSによる情報共有	0
4	複数の団体への所属による情報共有	0
5	その他	4
6	実施していない	2

【具体的な内容】

情報交換の場への参加
八尾市からの情報を基に参加（藍染保存会）。
杉並児童合唱団が主催する杉並会議や、八尾市合唱協会の会議には参加している。その他、ライオンズクラブやロータリークラブ、商工会等は個別に交流がある。「つどい」に登録しており、チラシの配架や助成金情報をいただいている（児童合唱団）。
プリズム運営ネットワーク会議への参加や、つどい井戸端会議・山本コミセンラウンドテーブルを開催している。その他に、観光案内所・FM ちゃお等への立ち寄り、つどいに来館された人との雑談などから、八尾や団体の動きなど本音を聞くための工夫をしている（つどい）。
登録団体間の交流はあまり把握していない。発表会の実行委員会では参加者同士で話している。他の施設との共同イベントは実施している。運営会社としては、大阪府内の複数の生涯学習センターを運営しており、その施設との情報交換は行っている。子育て分野で協力していく予定だ（かがやき）。
図書館のグループには会議でお会いしている。どこの団体も、自分たちの運営で精一杯であり、他の団体のことまで考える余裕がない。演劇フェスティバルをやっていた時は、他団体とのつながりがあったが、各団体が縮小し、一緒に集まる機会もない（人形劇）。
SNS やイベントへの参加
他団体の SNS のチェックやお互いのイベントへの参加で、情報交換を行っている。主催イベントは、つながりを持たせる場として開催している（すまいる）。
会の発足時には、滋賀県の社会福祉法人グローからアートディレクターの紹介を受けた。毎年、大津プリンスホテルで開催される「アメニティフォーラム」というイベントに参加し、情報交換を行っている。他の市民の活動団体との関わりはない（アールブ）。
個別に連絡
つどいにチラシを配架し、市内の方に広報している。八尾市観光ボランティアガイドの会にも、活動当初から所縁の場所を歩く催しでお世話になっている（高安能）。
なないろ（昔は人形劇をしていたが、今はこども食堂をしている）とは、インターネットでつながっている。なないろのサイトでイベント情報を掲載してもらっている（人形劇）。
あまりできていない
祭りの参加者・出店者とのやり取りはあるが、それ以外はできていない。各団体の企画情報は得ているが、グループメールのようなものはない。参加団体も参加することを目的としている（野遊祭）。
連盟内の各会派の会合や他会には積極的に参加している。また、滋賀県や東大阪市の江州音頭の会との交流はある。ただ、市の他の芸術文化団体との交流はない（河内音頭）。
ライブハウス関係ではなく、イベント音響関係ではある。八尾市内でのつながりは個人レベルのみ（シルキー）。
バレエ協会は文化連盟で個人的に交流があるが、他の分野とは特に接点がない（ダンス）。

■ 2-6. 活動するにあたってどこを頼っていますか。またどのような支援をしてもらっていますか。 (複数回答)

	項目内容	件数
1	活動に対する指導・助言	1
2	運営に対する指導・助言	0
3	補助金等の支援情報の提供	1
4	他団体との交流促進の支援	1
5	練習・発表場所の確保	1
6	会員の確保・育成	0
7	新型コロナウイルス感染症への対策	0
8	その他	2

【具体的な内容】

特になし
特に頼っているところはないが、綿の栽培等ではまちづくり協議会の協力を得ている(藍染保存会)。
特に頼っているところはない。形が決まっているため、頼らなくてもできている。ただ、後援は広くいただいているため、気は使っている。昨年、中止した理由は、子どもの参加が多いため、校長から要請があったため。イベントの危機管理については、八尾市の窓口相談した。国際交流センターとは交流がある(野遊祭)。
練習・発表場所の確保以外は、特に頼っているところはない。出演料が収入源であり、それを連盟や会派にプールしておく以外にない。プリズムホールの河内音頭やおフェスタに出演しているが、出演料はわずかで赤字になっている。会派を維持するにはお金がかかる。河内音頭だけで生活している人はいない(河内音頭)。
自力で運営している。会場予約も毎月行っている(児童合唱団)。
同業者との相談はなく、音響関係者とは話ができるが、お互いにあまり迷惑はかけられない。税理士には相談している(シルキー)。
プリズムホールのスタッフとは仲良くしているが、頼っていることはない。コロナ禍なので、ステージ照明や音響の講習会をお願いしたが、危険なためあまりいい顔はされなかった。協会の15周年イベントはしたい(ダンス)。
特になし。お金の工面だけだ。八尾東ロータリークラブからは、展覧会開催時に毎回助成を受けている。(アールプ)。
他団体との交流促進の支援
つどいから紹介いただいた団体は多い。いきいき八尾環境フェスティバルやわくわくまつりには、紹介いただいた学生団体も出店しており、子どもが無料で遊べる体験イベントも好評だ。近畿大学の学生が多い。ハッピーアースデイは大阪経済大学など様々な大学から参加があり、その時に飾る絵をみんなで描く無料コーナーなどを出してくれる(すまいる)。

補助金や他団体の情報提供
市や税理士、会員の能楽師の山中さん、NPO 法人なにわ文化芸術芸能推進協議会などから、様々な情報を得ている。市は協議会に参加してもらっており、メールで情報共有ができて いる（高安能）。
技術や運営の指導
プロの人形劇団クラルテに指導してもらっている（人形劇）。
練習・発表場所の確保
練習や発表場所については、プリズムホールに頼っている（河内音頭）。
プリズムホールには練習場所の手配や荷物（ケコミ）も預かってもらっている。人形劇 まつりの際は、光のプラザに人形を飾ってもらうなど協力してもらっている（人形 劇）。
販売先情報の入手
八尾市の入札や、商工会議所からも商談が入ることがある。観光協会からの注文や、直接 注文が入る場合もある。現在、茶吉庵で商品を販売してくれている河内物語の服部さんか らは、若い方の感性でアドバイスをもらっている（高橋商事）。
大学教授からの助言
地域分権について専門家の論文や紀要（定期刊行物）等を調査し学習した（つどい）。
活動支援の実施
八尾市生涯学習センターとして、活動に対する支援を行っている。

■ 2-7. 新型コロナウイルス感染症の影響や、対策として取り組んだことなどを教えて
ください。（複数回答）

	項目内容	件数
1	活動前の体温測定など、各自による健康チェック	9
2	消毒アルコールの準備や飛沫対策の実施	9
3	収容人数の多い会場の利用	5
4	感染対策マニュアルの作成や準用	3
5	オンラインツールを活用した練習・発表の実施	4
6	文化庁等の支援メニューの活用	2
7	対策に取り組んでいない	0
8	活動の休止	5
9	その他	1

【具体的な内容】

休止期間以外は対策を行い活動
昨年は教室の開催期間中に 2 カ月休止し、11 月まで延長したが、糊が乾かなくなる問題 が発生したため、今年は毎日教室を開き、参加可能な方に人数を絞って来ていただい ている。室内の換気やアルコール消毒等の感染対策も行っている（藍染保存会）。

緊急事態宣言や蔓延防止期間は活動を休止し、昨年は定期演奏会もできなかった。その期間以外は、保護者の同意が得られた子どものみ参加し、会場のガイドラインに従って対策を行い、練習を実施。今年の定期演奏会は、観客を保護者のみとして開催した（児童合唱団）。
7ヶ月間の臨時休館、閉館時間の1時間繰り上げ、貸館休止、部屋の用途変更等を実施。開館時はコミュニティセンターのガイドラインに準じて対策。オンラインツールも活用（つどい）。
緊急事態宣言などで休館していたが、開館時は全国公民館連合会のガイドラインに沿って対応し、定員を半数に削減した。フェスタかがやきの実行委員会では、ガイドラインを印刷し全登録団体に郵送した（かがやき）。
大阪府からの自粛要請で、昨年3月の卒業ライブはすべてキャンセルになった。昨年2月から実働できていない。ライブハウス協会のガイドラインに沿った対応は行っており、オンライン配信も実施したが、ドリンク代もチケット代もなく、あまりメリットはなかった。飲食業許可を取らず貸館業で営業していたため、助成金も出ていない（シルキー）。
講座は劇場や公民館等のガイドライン、能舞台は劇場・音楽堂のガイドラインに従って、すべての対策を行った。土日に関係ない会場で企画していた講座や公演は、平日の広い会場への変更や入場者数を制限して実施した（高安能）。
人形劇まつりの時は、ワンステージ（30分）毎に観客を入れ替えて、休憩時間に消毒や換気を行い、演技手と観客の距離も開けるなど、プリズムホールのガイドラインとクラルテの情報、自分たちのアイデアで、あらゆる対策を行った（人形劇）。
緊急事態宣言期間は活動を休止したが、一般的な対策はすべて行い、集客イベントから居場所づくりにシフトして活動している（すまいる）。
昨年は中止・今年は開催予定
昨年は中止したが、今年は感染状況にもよるが開催する予定。オープンなイベントであり、入口でのチェックはできないため、大阪府のコロナ追跡システムへの登録呼び掛けや、スタッフの健康管理・消毒対応程度になる（野遊祭）。
昨年も今年も活動休止
河内音頭はイベントそのものが三密であり、連盟や会派のイベント、地域の祭り、市民スポーツ祭も中止になった。練習も出演もしていない。イベントの開催を検討したが、クラスターが発生した場合の責任問題や、河内音頭を潰す気かとの意見もあり、やむなく中止した（河内音頭）。
新型コロナウイルス感染予防のため、令和2年3月から活動を休止している。障がい者施設は重度障害の方もおられるため、人一倍気を使わなければならない。ウェブ展覧会の話も出たが、ウェブの勉強から始めなければならない。展覧会がないため、積極的に芸術をやらなくなってしまう（アールブ）。
スタジオの有無で活動状況が異なる
スタジオを持っていない先生は休止している。持っているところは対策をして活動している。オンラインレッスンは自分はやっていないが、やっている先生もいるだろう（ダンス）。

オンラインツールの活用
Zoom でリアルレッスンや会議を実施した（児童合唱団）。
シニア世代には難しいため、オンライン講座はまだ行っていない。しかし、夏休みに子供向けのイベントを予定しており、Zoom でのリモート参加も検討している。また、1 階のデジタルサイネージには、各団体に PR 写真や動画を送ってもらい、スタッフが編集して活動紹介を流している（かがやき）。
昨年度の事業は、無観客で上演しインターネットで録画配信を行った。2 月には協議会の事業として、東京の能楽堂で復曲能「高安」の記録作成を行った（高安能）。
オンラインイベントやインスタライブでの交流会を実施した（すまいる）。

■ 2-8. 皆さんの今後の展望を教えてください。

後継者の育成
指導者も高齢になってきており、継承するためには指導者の育成が第一目標と考えている（藍染保存会）。
事業方針「人づくり・人育て」を推進し、次の業務責任者を養成する（つどい）。
マンネリ化の改善
マンネリ化の改善が課題。地域の異文化の人を巻き込むことで、地域につながり集う意味が増す。昔は近辺に住みコミュニティをつくっていたが、最近は入り方も多様化し、散らばって住んでいるため、つながりも見えず把握できない。ただ、ベトナム人は SNS でコミュニティをつくっている（野遊祭）。
巡回展の際にも作品集集めをしたが、同じような系統になってきている。現在は 3 団体の利用者が中心だが、八尾市や大阪府など交流の幅を広げ、作品を出展してもらう公募展のつながりができれば良い。その際はプロデューサーや審査員とのつながりもでき、私たちの活動も広がるのではないかと（アールブ）。
存続方法の検討
河内音頭を 2 年間やっていない。音頭取りも地域の世話役も高齢化しており、今後なくなってもいいと言われることが心配である。オンラインでもやってみたが、コロナ後にどこまでの体力・気力が残っているかわからない。河内音頭やおフェスタだけは市の主催でできるが、今後、河内音頭のやり方は変わってくるだろう。昔のように地域の盆踊りとして、小さくても残れば良いと思っている（河内音頭）。
協力金支給の対象外だが、売上は 70%減少している。クラブ活動の正常化次第だが、雰囲気低迷しており、コロナ前の状況に戻るのか不安に感じている。顧客への誘いは行っており、無料で練習場所を提供し、次回のライブで使用してもらいたいと考えている。何組か戻ってきてくれれば、そこから広がると思うが、まだきっかけがない（シルキー）。
関係者の協力を得ながら活動を続けたい。派手に広げることは考えていないが、年 1 回は開催して継続したい。また、薪能は屋外のため、見やすいホールで八尾に所縁のある能の公演を 3 年に 1 回程度実施したいが、非常にお金がかかる（高安能）。
新しい方に入っていただき続けていきたい。人形劇は体力を使うが、自分たちもできると

ころまでは続けたい（人形劇）。
通常活動への立て直し
練習も発表もなく止まっている活動を元に戻し、皆さんに知っていただき、活動の場所を広げていきたい。練習期間が必要なため、同じ演目なら月1回はできるが、季節的な曲を入れるなら2～3ヶ月に1回のペースになる。聴いていただくことで成長する（児童合唱団）。
現在7団体で、生徒数は合計500～800人ほどになる。まずはコロナが収束しないことには始められない（ダンス）。
現在休止している活動を、新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら再開したい。まずはこの間の作家の造形活動を把握し、作品を見つけたい（アールブ）。
事業の拡大
顧客（対象者・協力者）の拡大と拡充を図り、人材発掘（集客）・マッチング・顧客のアフターフォローを徹底する。そのお役に立った証拠を数字で示す（検証と改善の裏付け化）（つどい）。
市民がもっと活発に活動できるよう、間口を広げるような交流を行いたい（かがやき）。
ゆるく、細く、長く、自分たちが楽しめる活動をしたい。また、子育て世代だけでなく、これから子育てする高校生・大学生世代の対象とした、心身の健康に寄与する活動や、リラックスできる居場所づくりも進めたい（すまいる）。

- 2-9. 皆さんの活動を観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等に活かしていくことについて、お考えを教えてください。

行政との連携
行政の関連部署との連携が必要だ。こちらが持っているコンテンツを有効利用してほしい。FM ちゃおとはつながりがあるのでやり易い（シルキー）。
社会包摂を意識した芸術文化
教育、食育、多様性、障がい者福祉など、すべてが繋がっており、いい循環にしたい。子どもたちを排除しない芸術や文化のあり方は大事だ。子どものための音楽会や体験会は、将来の目標になるかもしれない。絵本も芸術作品であり、大人にも楽しんでほしいと思っている（すまいる）。
観光資源としての整備・情報発信
全国的に見ても、綿の栽培からすべての工程を手掛けているところは類を見ないと自負している。この活動を八尾の工芸品として、多くの方に発信していきたい（藍染保存会）。
河内音頭は八尾市だけでなく大阪にとっても不可欠。阿波踊りは専用施設を持っているが、月1回でもプリズムホールなどでイベントをできないか。河内音頭やおフェスタだけでなく、年に何回か昼間でも定期的に見せることで、観光客の来訪と市民のプライド向上の相乗効果が期待できる。廃校を利用していい。河内音頭で客寄せができるなら、イベントに呼んでもらうこともできる（河内音頭）。

以前、八尾市にベトナム人が多いと報道され、ベトナム料理に人が集まったことがある。上手く使えば、異文化は観光資源になるかもしれない。料理だけでなく、歴史や個性などを知ってみたい。ただ、最近は八尾以外にも店が多数できている（野遊祭）。
昔は太田一帯に機場があった。梅田繊維のような大きな機場も残っていないため、観光地にはできないが、河内木綿だけが残っており、ベンガラ染めの体験なら可能だ。手ぬぐいについては四国のデザイナーとコラボ商品をつくっており、八尾のデザイナーとのコラボで、枝豆や河内音頭など河内風土記シリーズとして商品化できると良い（高橋商事）。
八尾市が主催して観光資源として活かしてほしい。復曲能「綱」という演目には、高安千塚古墳群に鬼の手を埋めた話があり、衣装も派手でビジュアル的にも優れている。しおんじやま古墳学習館もあるため、研究員に勉強していただければアフタートークもできる。「高安」も一回きりの上演で終わらせてはいけない（高安能）。
まちづくりの中で、池田市のようにお寺で人形劇ができないか。顕証寺に相談したが、コロナ禍であり、お葬式があるとできなくなると言われた。八尾の中心は近鉄八尾だが、遠い場所の方に来ていただくのは難しい（人形劇）。
八尾の観光について
観光協会は八尾に来てもらうことしか関心がないが、八尾は大阪―奈良間にあり、信貴山の宿坊へ行く途中に来てもらえばよい。八尾は地域（大阪と奈良）・時間（歴史と未来）をつなぐことを考えるべき。八尾は神道と仏教の争いがあったが、そこから日本の寛容性が生まれていることなど、本質に踏み込んだ説明ができる人がいない（つどい）。
夏休みの子ども向けプログラムとして、八尾を題材としたクイズイベントを開催する。身近なところから一歩ずつ魅力を広めたい（かがやき）。
イベントへの参加
八尾まつりには参加しているが、屋外は不向きであり熱中症が心配。アリオやリノアスではクリスマスコンサートを行っている（児童合唱団）。
商店街等のイベントでコラボできれば、作品を見てもらう機会になる。作品の貸し出し料がもらえるようになれば良いが、まずは作品を多くの方にってもらい、まちづくりに貢献したい。巡回展の実施も、身近で作品を感じてもらいたいからだ。グッズ販売も有効だ（アールブ）。
教育分野への活用
小学生を対象としたロボットプログラミング体験講座を開催した（かがやき）。
福祉関連事業の推進
団体の登録については、ボランティア活動の実施を条件としている。また、不登校や引きこもり支援団体とのつながりもあり、公共施設の信用の元に様々な団体につないでいる。カルチャーセンターとの違いを出すため、親向けの講座も実施し、八尾市に貢献したい気持ちを活かした、講師や講座企画の募集には多数の応募があった（かがやき）。
恩智駅前の商店街にスタジオがあるが、娘の友人から子ども食堂をしたいとの申し出があったため、電気・水道・壁の工事を行い、スタジオの一角に子ども食堂をつくった。今週許可が下り、助成金も出た。これでレッスンに来た子が、隣でご飯も食べられるようになり、社会貢献もできる（ダンス）。

保育園や老人会等への慰問
老人会で人形劇や南京玉すだれを見ていただき、大変喜ばれた。生で実演し見ていただくことが大切だ。子どもたちも人形を持って音楽に合わせて演じると、見るだけよりも楽しい（人形劇）。

■ 2-10. 今後プリズムホールに期待する役割について

	項目内容	件数
1	活動に対する指導・助言	0
2	運営に対する指導・助言	1
3	補助金等の支援情報の提供	1
4	他団体との交流促進の支援	4
5	練習・発表場所の確保	5
6	会員の確保・育成	0
7	新型コロナウイルス感染症への対策	0
8	その他	3

【具体的な内容】

練習・発表場所の提供
後継者の育成のためにも、一般の方に広く見ていただける場所の提供をお願いしたい（藍染保存会）。
河内音頭の活動・普及のためには必要な場所である。河内音頭やおフェスタや河内音頭の講座など、長く続けてほしい。（河内音頭）。
東海児童合唱団は東海市芸術劇場付の合唱団で、いつでも練習室やホールが使用できる。ホール付き合唱団の仕組みを知りたい（児童合唱団）。
場所の確保という意味では、プリズムホールは八尾のわかりやすいところにあり、親子連れは買い物にも寄り易いため、ボランティア団体の活動でも使用できれば、信用も増し活動も活発になるのではないかと。人形劇まつりの際に、子育て支援団体をつなぐ会を企画していた。コロナ禍でできなかったが、そのようなお誘いはありがたい（すまいる）。
交流機会の提供
日本語の問題があり、参加できないことがある。以前、ベトナム人の公演があり、在住ベトナム人が盛り上がっていたように、何かプリズムホールに呼び寄せる仕掛けがあると良い。海外招聘が無理でも、ベトナムデーなどがあれば、集まる機会になる（野遊祭）。
他団体の様々な情報を知っていると思うので、それを教えてもらえると良い（人形劇）。
合唱団への支援
いつの間にか八尾市が吹奏楽のまちになってしまったが、合唱も応援してほしい。交流のある下関市文化振興財団や都城市文化振興財団では、主催事業を実施しており、東京の合唱団や指導者の招聘、チケットの販売などを行っている（児童合唱団）。

市民に開かれた場所
プリズムホールは外から見えずらく、入ったことのない方も多い。プロが来るところだと思われており、市民から遠い存在になっている（人形劇）。
中間支援事業への期待
鑑賞・表現事業に偏っている。もっと新しい人を呼び込むために、カフェも活用してほしい。芸術文化の中間支援施設に進化し、取りまとめやネットワークを促してはどうか。リノアス・アリオ八尾などとも連携し、近鉄八尾駅周辺の活性化への貢献も期待している（つどい）。
今の子育て支援団体は活発に動いているところが多い。プリズムホールが声を掛けてもらえるだけで勝手に集まり、自分たちでルールもつくってできるのではないかな。絵本の原画展なども同じ手法でできそうだな（すまいる）。
他の団体と協力して何かできれば良い。市やプリズムホールがコーディネータを招聘し、こんなイベントをやりたいと打ち出してもらえれば、参加させていただきたい（シルキー）。
他の団体と協力して何かできると良い。八尾市やプリズムホールが、そうしたコーディネータを出来る方と呼んでくれるとか、八尾市としてこういうイベントをやりたいと打ち出してもらい、私たちもそこに参加させてもらう流れになると良い（アールブ）。
文化芸術の中心的役割
貸館事業の他に、八尾市文化芸術芸能祭や八尾市文化連盟等の文化活動を行っている組織団体で、中心的な役割を果たしてほしい。また、活動団体の情報を一元化し、情報収集ができる場であってほしい（かがやき）。
民間施設との共同事業
民間施設との共同事業が実現できれば、まちの活性化につながるが、民間側からは言い出しにくいので、プリズムホールが各団体をつなぎ、音楽も含めた地域一体のフェスティバルができれば良い（シルキー）。

■ 2-1 1. 活動をする上で市にどのようなことを期待しますか。

展示場所や情報発信
市のギャラリーでの展示や市政だよりへの藍染講座の掲載等をお願いしたい。また、プリズムホールで作成していただいた動画を、自分たちのHPにも載せたい。村西徳子氏が私財で築き上げた伝統文化活動を、後世に残すために力を貸してほしい（藍染保存会）。
行政の役割や方針の明確化
練習場所の支援や、助成金に必要な手続きや対象事業などを教えてほしい。八尾市が何を目標しているのか、何をしようとしているのかがわからない（人形劇）。
助成金は申請・報告の手間がかかり過ぎて使えない。市は個人情報を持っており、掘り起しができるのではないかな。子育て中のお母さんの中には、外に出られない人もいるが、市は申請待ちであり、市政だよりで終わってしまう。施策検討の担当者は、ボランティアを

頼らず、もっと現場を見てほしい（すまいる）。
異文化の尊重
外国籍の人を尊重してほしい。目立つとたたかれてしまうが、市も財産として応援してほしい。異文化をコミュニティの特徴と位置付けて、定着した文化にしてほしい（野遊祭）。
記念イベントや参加への助成
ダンス協会の15周年記念イベントを開催したいため、もし助成金が出るなら申請したい。市の共催や後援を得られれば、生徒の励みにもなり、技術レベルも上げられる（ダンス）。
額縁などを持っておらず、舞台制作にお金がかかる。現在、額縁を購入できる程度の余剰金はあるが、設営は業者に発注するため、50～100万円程度かかる。展覧会では毎回市の後援名義をいただき、市役所のロビーもお借りしたが、助成金が同一事業に対して3回との制限があるため、別の形で継続的に助成を受けられることを期待する（アールブ）。
定期的に練習や公演ができる場所の整備
定期的に練習や公演ができる場所がほしい。どこで河内音頭を聞けるのかと聞かれた時に、プリズムホールでの定期イベント等を紹介できると良い。観光協会で八尾の神社仏閣を巡るツアーをしているが、そこに河内音頭も組み込んでもらいたい（河内音頭）。
合唱への応援
学校の合唱部は、吹奏楽部に押されて衰退している。文化祭でクラス対抗の合唱コンクールがあるようには聞いているが、先生の力量に左右される（児童合唱団）。
入札への参加
河内音頭祭りの浴衣は各団体でつくっているのかもしれないが、入札があれば声を掛けてほしい。染工場、縫製工場なども手配でき、機械プリントであれば大量に早くできる（高橋商事）。
新しい文化の尊重と信頼関係の構築
新しいチャレンジをしている人は、新しい文化をつくろうとしているが、潰されている。市民との信頼関係を構築する必要がある。また、行政にしかできないことは何かを考えて行動してほしい。協働で実施するなら対等にやっていきたい（つどい）。
以前は若者文化が優遇されていたが、今は完全に二極化している。文化活動は老朽化すると新しいものが出てこない。若い人の発想に芸術文化の可能性はある。バンドの次のステップとして、プリズムホールで発表できると良い。また、若者も巻き込んでまちぐるみでできれば、若者の発信力は大きい（シルキー）。

3. その他、個別質問への回答など

外国籍市民の芸術文化に対するニーズ
子どもや知人が出演しているで行くが、日本語がわからない。自国のプロの演奏を聴けば、大人はリフレッシュでき、子どもは自国の文化を知ることができる。また、カラオケ好きな人が多いので、カラオケ大会は盛り上がるのではないかと（野遊祭）。
芸術文化の多様な価値観の尊重
子どもが参加する自国文化の練習は小学校止まりで、中学校に入るとクラブ活動に時間

を取られてしまう。また、地域の人に知ってもらう機会があれば、多様な価値観の尊重にもつながる。文化を継承するためには、大人になるまで続けてほしい（野遊祭）。
子どもたちの居場所
学校に行きづらくなった子どもも、合唱団には来てくれる。メンバーはいろんなところから来ているため、普段の自分を知らない人の中で、自然に振舞うことができるのだと思う。多世代での交流があり、心が開かれていくのかもしれない。教育分野に進学する子もいる（児童合唱団）。

以上